

話題97 ティータイム(18) 日本人のルーツを求めて

～丸木舟で3万年もの航海を再現～

混沌とした時代。経済最優先の社会。欲望の波に渦巻く世界。憂鬱な世相の中に、思わず、なんとも言えない新聞の記事にホット一息。南の島から、日本人のルーツを辿って、丸木舟での航海が行われたとの話題であった。

人には、「夢」は欠かせない。人は、夢を求める。求め続ける。海流に乗り、季節風に乗り。日本人のルーツを探る「丸木舟」での航海。3万年もの昔の、人の思いを探る航海である。さわやかな風があり、嵐もある。それでも、なお、夢を追う。

かつて、夢を追い求めた医学の話題があった。琉球大学に医学部が開設される以前、保健学部の附属病院があった頃である。第一外科学講座のスタートの時代で正教授、遠藤助教の時代であった。長嶺信夫先生(現:長嶺胃腸科内科外科医院院長)の「背部弾性線維腫」の研究である。沖縄で頻繁に見られる背中のコブ(長寿コブ)の話である。肩甲骨の下角の部分によくみられる。労働による接触刺激により出来たコブであれば、男性に多くみられるはずである。しかし、高齢者、女性に目立つ。

長嶺先生は、このコブの地理的分布を調査した。そこから、日本人のルーツが推測できる。中国大陸、東南アジア、離島伝いに沖縄、南九州にと分布している。このコブの分布からしても、日本民族は、南からの海流に乗って新天地を求めたであろうことが推測される。不思議なことではあるが、このコブの謎は、北欧(フィンランド)にもこのコブがあるとの報告がある。

研究の功績は、他にもある。西日本に分布し、東日本には稀であることが分かった。このコブの存在が広く知られていない時代には、過大な外科的侵襲の加えられた時代があった。肋骨を含めて、コブを合併切除したとの報告もある。本来、そつと様子を診ていい「長寿コブ」である。

CTスキャンが普及した昨今、興味を惹かれるこのコブに対する私の仕事は、CTでどのような画像として捉えられるかの検討であった。左右両側にあるコブ、片側にあるコブ、腫瘤状のコブ、胸膜の肥厚像、たかがコブ、されどコブ、思い出のコブである。

多くの文献の中から、2編を記しておく。

- 1) Nagamine N, Nohara Y, Ito E: Elastofibroma in Okinawa: a clinicopathologic study of 170 cases. *Cancer* 50:1794-1805, 1982
- 2) 石川清司, 源河圭一郎, 国吉真行, 他: 背部弾性線維腫のCT所見, *外科* 51:514-516, 1989